

DPC/PDPSにおける高額薬剤の取扱いに係る ヒアリングの実施について

1. 趣旨

抗がん剤を含めた高額薬剤等のDPC/PDPSにおける取扱いの在り方を検討するため、関係有識者からの意見聴取（ヒアリング）を実施。

2. 日程等

- (1) 平成22年6月13日（月）
- (2) 意見聴取と意見交換を合わせて3時間弱を予定

3. 対象者（全7名、各10分程度のプレゼンテーションを予定）

対象施設等	所属	名前(敬称略)	役職
大学病院	大阪医科大学	瀧内 比呂也	化学療法センター長 第二内科准教授
大学病院	東京医科歯科大学	宮坂 信之	病院長 膠原病・リウマチ内科教授
がん専門病院	国立がん研究センター中央病院	島田 安博	消化管内科長
がん専門病院	国立病院機構四国がんセンター	江口 久恵	薬剤科長
地域中核病院	倉敷中央病院	小笠原 敬三	病院長
地域中核病院	市立豊中病院	片桐 修一	病院長
審査支払機関	社会保険診療報酬支払基金	井原 裕宣	医科専門役

4. ヒアリング項目

各出席者から、以下の事項について意見聴取の後、意見交換を行う。

- (1) DPC/PDPSで問題となる高額薬剤の実例
- (2) 同一DPC（診断群分類）におけるバラツキの実情
 - ① 患者レベルのバラツキ（個別患者ごとの薬剤やregimenの違い）
 - ② Regimenの種類によるバラツキ（同一薬剤であってもregimenが異なる）
 - ③ 施設間のバラツキ（医療機関の特性（難症例の紹介患者が多く集まる、他院より短期退院をしやすい環境がある等）や運営方針の違い）
- (3) 現行制度に関する指摘・提言等
 - ① 主要regimen毎にDPCを設定している現行方式について
 - ② 新薬等のDPCにおける高額な薬剤等への対応ルール（いわゆる「平均+1SDルール」）について
 - ③ その他